

高品質で栽培しやすい 俵型大納言小豆新品種の育成

俵型の大納言小豆は、京都府内の和菓子業界等から高級小豆として高い評価を得ています。しかし在来品種(馬路大納言・瑞穂大納言など)にはウイルス病への抵抗性がなく、機械収穫にも適していません。そこで、インゲンマメモザイクウイルス(BCMV)抵抗性をもち、機械収穫適性が高く食味の良い俵型大納言小豆新品種の育成に取り組んでいます。

俵型遺伝資源系統(左)と烏帽子型のBCMV抵抗性品種(右)を交配



俵型系統 × BCMV抵抗性品種

世代促進・戻し交配



交配後代系統(F₁₀₋₁₂)

BCMV抵抗性を持つ
俵型有望系統を複数選抜



BCMVに感染した葉(左)と健全な葉(右)
感染すると減収の要因となります



コンバインでの機械収穫の様子
倒伏が少なくコンパクトな草型が
機械収穫に適しています

機械化に適した栽培体系での草型や収量などの調査、加工適性・食味の評価を行い、さらに品種候補の選抜を進める予定です。

高品質な大納言小豆を育成することにより、高級大納言小豆の生産量の拡大、農家の所得向上、地域の6次産業化、和菓子業界の活性化につながります。